

●京都府立ゼミナールハウス

<p>前回検証結果 (平成26年度)</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「森の京都」等、府の地域構想と連動した活用方法・打ち出し方を検討すること。 ・設置目的に照らした目的達成の指標を設定し、募集要項に盛り込むこと。 ・引き続き、利用者数の拡大に向けた営業活動の展開や自主事業の実施等、利用促進の取組を行うこと。 ・生涯学習から文化・芸術分野まで視野に入れた取組を展開すること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「森の京都」に関連した事業を実施し、京北の魅力を発信。 ・平成27年度指定管理募集要項に、「宿泊利用者数」等の目標数を設定。 ・開館日・開館時間の拡大。 ・設備料金の引き下げ、提携大学の食事料金の割引、無料送迎の拡充。 ・地域団体や地元芸術家等と連携し、事業を実施。 ・自主事業の内容は毎年度見直し、改善。
<p>取組の結果</p>	<p>◇直近3箇年の実績として、平成28年度と比較し、平成30年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が約3%減少 ・利用料金収入が約9%減少 等
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者数・利用率・利用料金収入が年々減少。 ◆施設・設備の老朽化が進行。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □社会環境の変化の中で、現在の活用状況が、学生が宿泊しながら研修を行う施設という当初の設置目的から変容しつつあるため、設置目的を再検証し、それに応じた有効利用方法の検討が必要。 □大学・企業への活用告知に加えて、小・中・高校との連携強化や学生の農山村体験の一環での利用により、広く美山・京北の自然体験や文化体験と連携した取組など検討が必要。 □（管理者の）将来展望を踏まえた人材の確保と大規模補修の検討が必要。 □施設内容に合致した営業の戦略（マーケティング戦略）の策定による利用率の向上が必要。顧客ターゲットを明確にしたパック商品の提供、利用者の困り込み、大学関係者の理事への選任等の工夫が必要。

<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎社会環境の変化や施設の機能を踏まえ、設置目的を再検証し、施設のあり方について検討を行うこと。</p> <p>◎施設の内容に合致した営業の戦略（マーケティング戦略）による利用率の改善を図ること。</p>
	<p><今後の対応></p> <p>○社会環境の変化を踏まえた上で、設置目的の妥当性も含め、施設のあり方について検討を行う。</p> <p>○時代の変化に合わせ、企業研修や日帰りの高齢者といった新たな顧客層のニーズを踏まえた企画の開発など、利用率向上に向けた経営戦略等について、指定管理者公募時に提案を求める。</p>